



# 第8回 パソコン文字通訳 シンポジウム 予稿集

2018年1月8日(月・祝) 10:30~16:45

東京都障害者福祉会館 B1・B2

主催 特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会

共催 全国文字通訳研究会 東京支部

後援 日本聴覚障害者コンピュータ協会

みみより会

ろう・難聴教育研究会



# プログラム

総合司会:宮田 和実

- 10:30 開会挨拶  
実行委員長 長谷川 洋
- 10:35 「平成 29 年度全国生活協同組合連合会助成金」事業報告  
報告 大場 美晴(全国文字通訳研究会)
- 12:00 休憩
- 13:00 講演「これからの文字通訳に期待すること」  
講師 久保 陽奈 氏(弁護士)
- 14:30 休憩
- 14:45 ログについて  
講師 鈴木 真実氏  
進行 丸山 幸美
- 16:30 全国文字通訳研究会からお知らせ
- 16:40 閉会挨拶  
宮田 和実

## 資料目次

「平成 29 年度全国生活協同組合連合会助成金」事業報告	1
「これからの文字通訳に期待すること」久保陽奈氏	5

# 「平成 29 年度全国生活協同組合連合会助成金」 事業報告

報告 大場 美晴（全国文字通訳研究会）

「平成 29 年度全国生活協同組合連合会助成金」をいただき、パソコン文字通訳者の養成テキストを作成、このたび完成しましたのでご報告します。

## ■事業計画

◆事業名 パソコン要約筆記（文字通訳）養成方法の開発とテキストの作成

◆事業の目的

パソコン要約筆記（文字通訳）の実技を解説した新しいテキストを開発し、平成 30 年春から全国の養成講習会でサブテキストとして採用してもらうことを目指す。

◆事業の概要

・事業名 パソコン要約筆記（文字通訳）養成方法の開発とテキストの作成

・事業概要 パソコン要約筆記（文字通訳）の担い手の養成プログラムを策定し、新しいテキストを作成、配布、普及活動を行う。

・事業内容

① 聴覚障害者のニーズに応えるパソコン要約筆記（文字通訳）の担い手を養成するため、実技に重点を置いた新しいテキストを検討し作成する

② 全国の養成現場にサンプル版を配布し、出張模擬授業を実施。平成 30 年春から全国の養成現場で連係入力指導のサブテキストとしての採用を目指す

・助成金 150 万円（※これにこの事業への寄付金を加え製作費とした）

・実施期間 平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日

## ■完成報告

◆タイトル

「パソコン文字通訳（要約筆記）者 養成テキスト」  
（A4 判 196 ページ CD-ROM つき）

◆発行日

2017 年 12 月 31 日

◆企画・編集

特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会

「文字通訳者の養成に関する検討会」

◆発行者

特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会



## ■ 評価

2017年夏にサンプル版を作成し、全国の都道府県・政令指定都市・中核市等に配布しました。その後、内容についてアンケート調査を行い評価をしていただきました。

### 【調査概要】

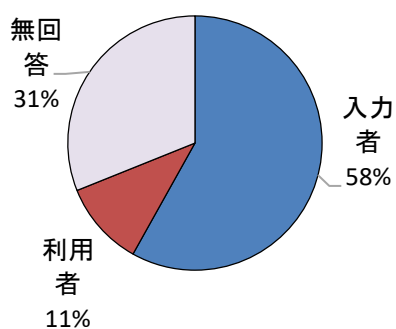
- ・調査名 文字通訳者養成テキスト（サンプル版）に関するアンケート
- ・調査時期 2017年10月～11月
- ・調査対象 サンプル版をご覧になった講師、行政担当者、要約筆記者等
- ・有効回答数 74件
- ・調査方法 調査票を郵送で配布し、郵送・FAX・メールで回収

### 回答者内訳

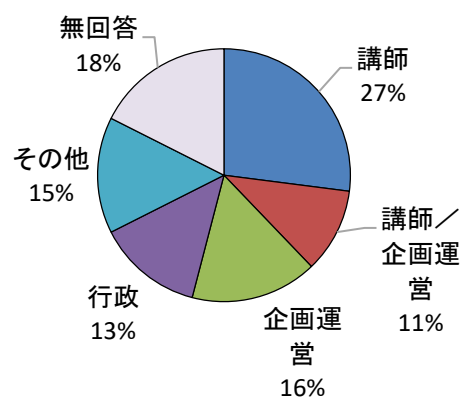
(件)

	講師	講師／ 企画運営	企画運営	行政	その他	無回答	合計
入力者	19	3	5	1	9	6	43
利用者	1	1	1	—	1	4	8
無回答	—	4	6	9	1	3	23
合計	20	8	12	10	11	13	74

お立場①(n=74)



お立場②(n=74)



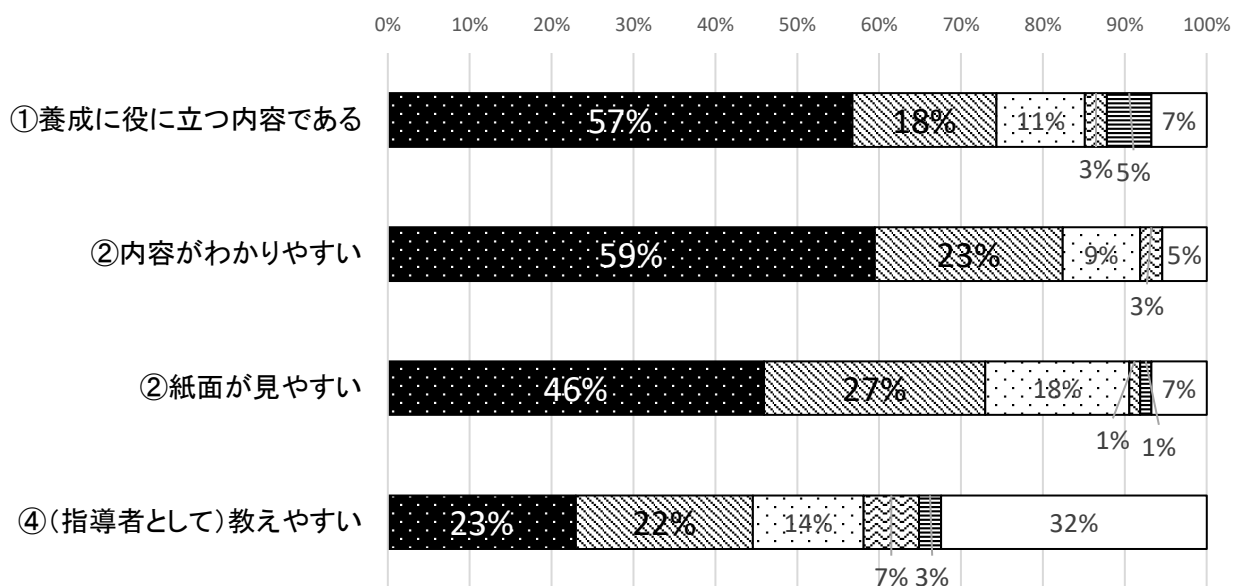
◆サンプル版の評価

約7～8割が「役に立つ」「わかりやすい」「見やすい」と回答。

(n=74)

	とてもそう 思う	少しそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	わからな い ／無回答
①養成に役に立つ内容である	57%	18%	11%	3%	5%	7%
②内容がわかりやすい	59%	23%	9%	3%	0%	5%
②紙面が見やすい	46%	27%	18%	1%	1%	7%
④(指導者として)教えやすい	23%	22%	14%	7%	3%	32%

サンプル版の評価(n=74)



■とてもそう思う □少しそう思う □どちらともいえない □あまりそう思わない □全くそう思わない □わからない／無回答

### ◆採用の意向

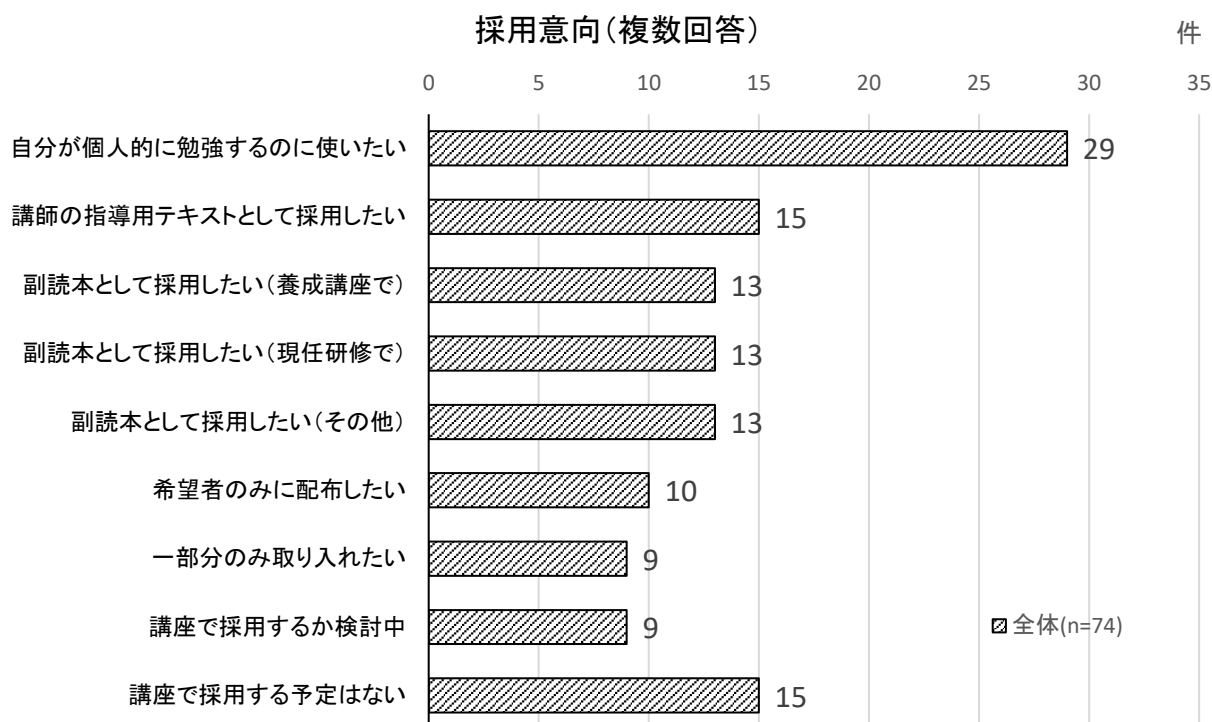
「自分が個人的に勉強するのに使いたい」が29件「講師の指導用テキストとして採用したい」が15件など、養成の現場で何らかの形で使いたいという意向が高かった。

養成講座での副読本として使うことを想定して作成したテキストであるが、「副読本として採用したい（養成講座・現任研修・その他）」は各13件だった。

「講座で採用するか検討中」は9件。ただし、統一試験や現行カリキュラムとの兼ね合いがあるため、「採用する予定はない」が15件と採用は難しいとの声もあった。

(件・複数回答)

	全体(n=74)
自分が個人的に勉強するのに使いたい	29
講師の指導用テキストとして採用したい	15
副読本として採用したい(養成講座で)	13
副読本として採用したい(現任研修で)	13
副読本として採用したい(その他)	13
希望者のみに配布したい	10
一部分のみ取り入れたい	9
講座で採用するか検討中	9
講座で採用する予定はない	15



以上

## これからの文字通訳に期待すること

弁護士 久保 陽奈<sup>はるな</sup>

- 久保 陽奈（くぼ はるな）  
弁護士  
もともとは聴者、20歳頃より徐々に難聴が進行。現在は両耳とも100dB程度（手帳2級）  
2007年9月 弁護士登録（東京弁護士会）  
2010年～ 筑波技術大学非常勤講師  
補聴器、ロジャーシステム、音声認識アプリを活用して仕事をしている  
2017年1月 NHK「ろうを生きる難聴を生きる」出演
  
- 弁護士としての10年  
上司、同僚、関係者、クライアントなど、周りはすべて聞こえる人  
働き方の工夫
  - ①機器の活用（補聴器・ロジャーシステム・音声認識アプリ「UD トーク」）
  - ②「障害」と「求める配慮」を理解してもらうこと
  - ③正確に理解・把握するための工夫配慮は特別なことではない  
障害者にとって働きやすい環境は、障害のない人にも働きやすい  
障害者差別解消法・改正障害者雇用促進法／「合理的配慮」について
  
- 文字通訳について  
「要約筆記」と「全文通訳」は代替できない別のニーズ  
難聴の裁判員候補者と裁判所との交渉を支援した実例
  
- これからの文字通訳に期待すること  
そこに当然のようある「差別」  
すべてのイベントに字幕を

以上

## 第8回パソコン文字通訳シンポジウム

実行委員長 長谷川洋

主催 特定非営利活動法人 全国文字通訳研究会

ホームページ <http://mojitsuken.sakura.ne.jp/wp/>

メール [info@mojitsuken.sakura.ne.jp](mailto:info@mojitsuken.sakura.ne.jp)

FAX 020-4624-1608

※私たちが求める情報保障と「要約筆記」という言葉の持つニュアンスとの間には隔たりがあるため、私たちはあえて「パソコン要約筆記」ではなく「パソコン文字通訳」という言葉を使っています。